

タバコシバンムシ幼虫

食品製造施設から「料理をするためにミツバ、玉ねぎ、ふを水の中で洗っていたところ、白い小さな虫が浮かんできました。虫の名前は何か。どの食材から出たのでしょうか。人に害はありませんか。」などの相談です。持参されたビニールの袋の中には、白い小さな虫が多数確認できました。タバコシバンムシの幼虫でした。ミツバ、玉ねぎ、麩(ふ)の三つの食材のうち、発生する可能性があるのは、麩であると説明しました。

タバコシバンムシ幼虫

タバコシバンムシは、保健所によく相談がある種類です。しかし、相談の多くは、タバコシバンムシの成虫です。その理由の一つは、室内の畳のわらがシバンムシの発生源になることからです。畳のわらで発育した幼虫は、やがて成虫となり、室内を徘徊し、発見されることが多くなります。

タバコシバンムシの幼虫の相談事例は、今回のように食品に発生している場合です。今までの経験では、長期間保存されたそうめんにタバコシバンムシ幼虫が大発生したことがありました。

シバンムシ科

シバンムシを英語で表すと「death watch beetle」と書きます。ヨーロッパでは、家屋の木材を加害するシバンムシの種類があり、その幼虫が木材を加害するときや異性を探すときにカチカチカチと時計のような音を立てるそうです。昔は、その音の原因が分からず、死の前兆だと信じられていました。このことから death watch beetleは、死を告げる時計の虫という意味でした。ところが日本に death watch beetleという言葉が入ってきたときに、このwatch を「監視、見張り」と訳したため、死の番をする虫、すなわち死番虫(シバンムシ)となりました。

タバコシバンムシ幼虫の特徴

幼虫の体がC状であることや、触角が短いことなどはシバンムシ科の幼虫の特徴です。また、体全体に細かい毛が生じます。ジンサンシバンムシも同じような毛が生じますが、タバコシバンムシの頭部には特有の文様があることで区別が可能です。

ニコチン

現在の殺虫剤は、有機リン系殺虫剤、ピレスロイド系殺虫剤など化学的に合成したものです。いずれも第二次世界大戦以降に使用されました。そうした殺虫剤ができるまでは、殺虫剤は、自然物や無機物でした。その一つが硫酸ニコチン剤です。タバコの葉からニコチンを取り出し、硫酸と結合させたものです。このようにタバコには、殺虫効果のあるニコチンが含まれています。それにもかかわらず、タバコシバンムシは、タバコの葉を加害します。驚異の能力です。また、ニコチンに耐性があるだけでなく、ピレスロイド系殺虫剤にも耐性があります。市販されている殺虫剤の多くは、ピレスロイド系殺虫剤です。殺虫剤による駆除を行う場合は、注意が必要です。

シバンムシアリガタバチ

タバコシバンムシは、食品害虫として有名ですが、まれに幼虫は、シバンムシアリガタバチの宿主(寄生主)になることがあります。詳しくは、「衛生動物だより第19号」を参照してください。

